



鳥取こども学園 学園だより

第 51 号
2022年 6 月 1 日

〇発行
社会福祉法人
鳥取こども学園

鳥取市立川町5丁目417番地
電話 (0857) 22-4206
<http://www.tottorikodomogakuen.or.jp/>
題字 尾崎悌之助

世代を超えて語り継ぐもの

社会福祉法人 鳥取こども学園

法人常務理事 田中 佳代子



日増しに残虐さをあらわにするロシアのウクライナへの侵攻は収まらず、尊い命・未来ある子どもたちの命まで奪い続け、世界中の人に深い爪痕を刻み続けている受けとめがたい現実。新型コロナウイルス感染症発症から3年目を迎えても終結の兆しは見られず、罹患をさけるための窮屈な生活も改善出来ぬまま、令和4年度を迎えました。虐待死する子どもたち、一般人を巻き込んだの死亡事件も後を絶ちません。自然災害も多発する国でもあります。戦闘・自然災害等に巻き込まれて命をなくした方々、今も苦しみ続けている人々のことを考えると、家があつて心が満たされ、三食食べられて温かい布団で眠られる事が最高の幸せと実感する反面、このあたりまえの生活を送ることに罪悪感を抱いてしまふ悲しさもある大変な社会状況です。

このしわ寄せは子どもたちに大きく影響を与え、路頭に迷つ子どもたちの増加も懸念されます。社会的養護・養育を必要とする子どもたちへのサポート体制の強化が今後ますます求められ、社会的弱者に寄り添う姿勢が重要な役割を果たすことを法人役職員で確認しながら歩んでいます。

社会福祉法人鳥取こども学園は、新年度を迎えるにあたり、児童養護施設・児童心理治

療施設の施設長の交替を行いました。世代交替で若い力を結束させて、中・長期的なビジョンの構築に取り組み、民間社会福祉事業として歩み続けた蓄積を土台に、更なる一歩を踏み出します。法人は児童分野だけでなく、障がい者支援、里親支援等12事業と幅広く寄り添わせていただいています。常に連携を持って各事業間のより添いも大切にしています。新たに運営企画室長を配置、就労自立支援事業統括を配置するなど総合的な組織体制強化を図りました。

法人が大切に語り継いできたもの。それは創設者の献身的寄り添いが語り継いでいる理念。キリスト教精神に基づく「愛」です。

愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。

「愛はいつまでも耐えることがない」

(「リント信徒への手紙」1:13-14-8)

それぞれの時代で支援の形態は刻々と変わっています。その時代時代に合わせた柔軟な発想や気づき、実行力も必要とされます。

一人の力では限りあるものを、法人はチームの力で取り組んでいくことを再確認しました。その中心にいるのは、子どもたちであり、利用者であることを私たちは知っています。子どもの生きる力、自己治癒力から多くのことを学び、変わらぬと思っていた保護者も長い時をかけて確実に変わっていかれる姿から、信じ続けること・寄り添い続けることの意義を知らされました。完璧な養育支援は無いに近いうと長年の経験から思いますが、だからこそ常によりベターな支援を模索する努力が必要と思つたのです。法人理念の継承を法人幹部は、とても大切にしています。時代が変わっても基本理念は変わりません。日本を代表する社会福祉実践家であり、熱心なクリスチャンである阿部志郎先生が「靴(制度)に足(利用者)をあわすのではなく、足(必要)に合わせた靴(対応)を作ろうと歩んでいるのが鳥取こども学園だ」と後押ししてくださいました。社会のニーズに答えているという取り組みを展開してきた法人は、現在経営的に非常に苦しい状況が続いていますが、運営方針に賛同してくださる多くの関係機関の方々、地域の方々に見守られて116年の歴史が刻めていることに改めて感謝しております。

令和4年度も世代交替も含め、新たな気持ちで頑張ります。地域の皆様、関係者の皆様、利用者の皆様、保護者の皆様、そして子どもたち、今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

興一じっちゃんをつぶやき



理事長
藤野 興一 記

15着る物もなく、その日の食べ物にも事欠いているとき、16:「安心して行きなさい。暖まりなさい。満腹するまで食べなさい。」と言っただけで、からだに必要な物を何一つ与えないなら、何の役に立つでしょう。17信仰もこれと同じです。行ないが伴わないなら、信仰はそれだけでは、死んだものです。
(ヤコブ2:15~17)
9愛は決して滅びない(絶えることがない)。(コリントの信徒への手紙1:13-14)
1 私は1941年、鳥取育児院で生まれ、学園の子どもたちと一緒に育てられた。

①学園の子どもは皆、私の父母をお父さんお母さんと呼んでいた。私だけにいつも親がいるのは厭だった。「親がいなければどんなに幸せだろう」と思ったことさえあったが、親がいたお蔭で鳥取東高、同志社大学に進学した。

②高校時代から教会に通い、同志社でもマルクスレーン語を語りながら教会に通った。1970年安保闘争後、賀川豊彦に憧れて、横浜寿町で炊き出しをし、「寿日雇い労働者組合」の結成にも加わった。これらを支えてきたものは、鳥取こども学園でのキリスト教社会事業精神と学園の子どもたちの仲間になるうとして仲間になれなかった。カミユの異邦人の様な経験であった。

2 1976年12月、生まれ育った学園の児童指導員として働くことになった。

①最初に取り組んだのは「高校全入と18歳までの養護保障」の取り組みだった。学園では今、高校進学は当たり前で、大学進学、海外留学まで実現している。

②1979年2月、1歳から学園で育ったMさんが、豪雪の中OBたちの必死の捜索にもかかわらず18歳の命を絶った。翌年1980年12月、やはり1歳から学園で育ったK君が大阪で20歳の誕生日に自ら命を絶った。

③涙の尽きない夜を明かした中で、誰でもいつでも帰れるOB、OGの家を作ろうと自立援助ホーム鳥取フレンドが生まれた。今では、自立援助ホームは全国に123ホーム486人の青年が暮らしている。入所は20歳までだが、24歳まで延長が可能である。

3 子どもの人権を守るを指して①1986年、「幼児の集団養護はやめよう」という運動を開始、現在の「母子愛着トレーニングセンター」としての役割を担う乳児院へとつながっている。

②施設で暮らす子どもたちの無権利状態改善のため、当事者の声を聴こうと、1988年鳥取で「第一回全国養護施設高校生交流会」を開催した。1998年第十回仙台大会まで非公式鳥取フォーラムも含めて計11回、参加高校生1311名、アシスタント職員599名、計1910名が参加し、現在の当事者運動に繋がっている。

③「不登校」が社会問題化し、児童養護施設が使われるようになり、その在

り方が問われた。「戸塚ヨットスクール」や「風の子学園」のスパルタ教育で子どもを殺してしまつ悲劇もあり、1994年、鳥取こども学園希望館を併設した。

④1999年、希望館外来相談部門を中心に「児童家庭支援センター」としての認可を受け、そこで「NPO法人子どもの虐待防止ネットワーク鳥取」「子育てSOSネットワーク」の事務局も引き受けることとした。

4 命を奪わないで！人間の尊厳を侵さないで！「人の世に熱あれ、人間に光あれ！」(2022年結成100周年を迎える水平社宣言より)

①2月24日ブーチンが始めた戦争は、全世界で即時停止を求める嵐のような運動の広がりににもかかわらず、益々激しさを加えている。ゼレンスキーウクライナ大統領が徹底抗戦を呼びかけ多くの市民が武器をとって戦い、多くの国が武器を送っている。戦争は激しくなり、北朝鮮のミサイル発射実験も加わり、核戦争も心配される。互いに譲らない停戦交渉は戦争を長引かせ死者を増やし続けるだけである。

②一方、日本では、毎日のように子どもが虐待により殺され、岡山の西田真愛ちゃん5才虐待死事件など益々残酷さを増して全国各地で起こっている。また、2019年7月に犯人を含む36

人の死者を出した京都アニメーション放火殺人事件や2021年12月、26人の死者を出した大阪ビル放火殺人事件など、孤立し絶望した老人や若者による「無差別殺人事件」が繰り返されている。何としても事前にストップをかけねばならない。

③戦争や虐待、暴力の連鎖にストップをかけるのに、より強い軍隊やより強い取り締まり、罰則強化などで対応するのは間違いである。非人道的戦争を始めたブーチン大統領は勿論大きな間違いを犯している。同じくらいゼレンスキー大統領も大きな間違いを犯している。その結果ウクライナの人々は残酷に殺され続けているからだ。

④私たちが敬愛するキリスト教社会事業の優れた実践家である中村哲や緒方貞子や石井十次たちは、たとえ「敵」であっても「どんな人でも大切にするイエスさまの愛」をもつてとことん命を大切に、最もひどく被害を受けている当事者の命と尊厳を冒頭の聖句のとおり実践している人々たちである。

⑤また同等に彼等は子どもアドボカシーの優れた実践者でもある。現在、子どもたちの権利擁護システム(子どもアドボカシー機関)や子ども省を創設すべきという議論が行われているが、大人が考えて「守ってあげる」「救ってあげる」ではなく、子どもと一緒に議論していくべきである。子どもが声を出して、何か変化が起こっていくことが子どもアドボカシーで、その先の「権利ベースの文化」「命に寄り添い続ける愛の福祉文化」を目指すべきである。

⑥当事者の命に寄添い続け、「子どもの人権を守る最後の砦」としての社会的養護施設にもっと光を！と叫び続け、子どもたちと共に子どもたちに学びながら子どもたちの仲間に加わり続けたいと思いますので、よろしくお願ひします。

児童養護施設

鳥取こども学園

児童養護施設鳥取こども
学園の園長に就任して園長
藤野 謙一

2008年度から7年間、私は歴史研究者と共に学園の倉庫に眠っていた資料

561点（1905年から1945年代）を整理する機会に恵まれました。その資料の中に、私の祖母である藤野とりのメモ「私は子どもたちの土工になりたい」という言葉を見つけ、今でもその言葉が頭に焼き付いています。まだ制度がない時代にあつて、祖父である藤野武夫は、死に物狂いで子どもたちのために学園運営資金集めをしています。九州の炭坑に出稼ぎに行つて、落盤事故で腰を痛めたりもしています。資料には、先達の泥にまみれながら資金集めと子どもたちに寄り添い続けた歴史が見てとれます。資料を読むと、それは決して美化されるものではなく、お世話する側の人間としての弱さ・苦悩もあることがわかります。

私は、病に伏して寝たきり状態の祖父母とともに、学園敷地内の雨漏りのするボロ家に高校卒業まで過ごしました。その家には、職員、学園の子ども・保護者、行き場のない人、OB・OGが自由に出入りし、聖書で言う「心底貧しくされ、小さくされた者（本田哲郎 訳）」の間としての尊厳について深く考えさせられました。そして、病の祖父母に会いに来るOB・OG一人ひとりの人生・人情の微細を感じながら、祖父母のやってきたことを感じていました。

時代が変わり、社会が変わり、制度も出来て年々変わっています。しかし、心底貧しくされ、小さくされた者の悲しみ、苦しみ、寂しさは変わってあらず、それに寄り添う人も昔と同じく少数であると私は思います。最も大変な状況にある人こそ、我々が寄り添わせていただく存在で、そこに鳥取こども学園の存在価値があると思います。

私が尊敬する阿部志郎さんは、『自分の子を世話するのは当然であるが、なぜ、他人の子の面倒をみなければならぬのか？』の素朴な疑問に答えることが、福祉のはじまりであると同時に、終着点でもある。福祉は、醜いものを拒否してやまない心から解放され、自己愛を克服する努力の中から生まれる。福祉と

は、『本来あつてはならぬ存在』と自己を否定せざるをえない厳しい疎外状況におかれた人々と、共に生き抜く決意を迫られる自分自身の問題にほかならない。」と言っています。

園長として、まずは自分の弱さを認め、不器用であっても「愛（一人ひとり大切にすること）」をもつて役割を果たす職員集団でありたいと願っています。そのためには、どうかこれを読んでいる皆様の力を貸してください。

綿毛がふわり

たんぽぽ
ホーム長 下田 朋史

今年も学園前の見事な桜並木が新年度のスタートを祝福してくれているように、私は桜のにおいが好きです。満開の桜並木で深呼吸して、心身いつぱいに、何とも言えない清々しさや何かが始まったような気持ちで満たされる。勤め始めて15回目の心の浄化です。今は葉桜になり、また違った表情を見せてくれる桜並木ですが、今年はまた違った場所から、私は新年度スタートを切りました。今年度から本園敷地内「たんぽぽホーム」は「地域小規模児童養護施設たんぽぽ」と

して、地域の一軒家に引っ越ししました。たんぽぽホームで生活していた子どもたち、職員みなでの引っ越し



です。紹介してくださった地域の方をはじめ、リフォーム業者の方、支援してくださった方々、本当にたくさんの方の力を借りて、無事引っ越すことができました。ことをこの場を借りて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。これからも繋がりを大切にしていきますのでよろしく願います。

引っ越した家「たんぽぽ」は、とても大きな家です。憧れのカウンターキッチン、広いリビング、トイレ、お風呂も新品！子ども部屋も今のところ小学生高学年からは一人部屋です。この家をどんな家にしたいか。大きく分けて2つあります。1つ目は、経験（体験）を大切にす家です。子どもが生活で出会うワクワク・ドキドキを大事に、好奇心を大切に育んでいく家になりたいです。2つ目は、ほっこり安心できる家です。子どもも大

人も目が合うと、ニヤッと、テハッとしてしまっ、生活の中で温かみを感じられる家になります。

私の好き



う綿毛が旅立ち、たんぽぽに成長した新たな綿毛を飛ばしていつてほしいと思います。

新任職員の自己紹介

◆かつらぎの家



保育士

山本 結依

今年度よりお世話になります。初めての事が多く、慣れない事ばかりですが、積極的に子どもたちと関わっていき、子どもたちの成長を支えながら、自分も成長できるように精一杯頑張ります。よろしくお願いします。

◆すみれホーム



児童指導員

小谷 真里衣

私は、子どもの福祉に関心があり、大学では福祉について学びました。子どもとの関わり方を今後経験を通して学んでいきたいです。ご迷惑をおかけすることがあると思いますが、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

◆たんぽぽ



児童指導員

山下 耀太

今年度からたんぽぽでお世話になっている山下耀太です。子どもたちとたくさんあそび、たくさんの事を経験して一緒に成長していけたらと思います。精一杯頑張ります。よろしくお願いします。

看護師

保木本 真弓



4月から働かせていただくことになりました、看護師の保木本です。まずは早く仕事と皆さんの顔と名前を覚えて、子どもたちが元気にすごせるようにサポートしていきたいと思っています。たくさん話しかけてもらえると嬉しいです。よろしくお願いします。

事務員

坂口 結



4月から養護の事務員としてお世話になっていきます、坂口結です。覚えることがたくさんありますが、みなさんに教えてもらいながら頑張っています。

きたいと思います。

よろしくお願いします。

児童心理治療施設

鳥取子ども学園希望館

仕えて未来を紡ぐ



館長

水野 壮一

この度花川館長の後を引き継ぎ、6代目鳥取子ども学園希望館館長を拝命いたしました。どうぞよろしくお願い致します。希望館にはサバントリーダーという考え方があります。新約聖書マルコによる福音書10-43「仕える者になりなさい」という主イエスの御言葉をベースに、「子どもと現場を尊重し、下から支えるリーダーを」というものです。ですから希望館ではトップに子どもがいて、次に新人・若手職員が尊ばれ、館長という職は希望館では最下位に置かれる構図となっています。

希望館27年の歴史において、歴代の館長はそれぞれ人格・品性・知識に富み、

この「たんぽぽ」から子どもたちとい

ナチュラルにサーバンントリーダーを達成されてきましたが、私はその資質に欠ける自覚があります。だからこそ祈りと感謝を大切にし、また学びを怠ることなく、希望館の子どもと現場に仕えて尽くしたいと考えています。

そんな希望館は春と共に、子どもたちを尊び育むための支援体制を構築しました。

入所部門においては、主要4ホームにおいて1ホームにつき職員4名体制をスタートします。これによって、オーバーワークを解消しつつ、これまで以上に丁寧で温かい支援と共に安心安全な生活を保障していきます。

しかし職員が増えれば全てが上手くいくわけではありません。そこには子どもと現場を尊ぶサーバンントリーダーが必要です。引き続き「あつたかパワフル」な男子ブロック長と共に、私の後任女子ブロック長としてベテラン保育士を、この男女両ブロック長と各ホーム長を連携すべく、ブロック長補佐を新設し保育士を配置。どちらもしなやかで温かく、希望館と子どもたちに精一杯の愛情を注ぐ人で、それぞれの持ち味を活かしてみんなを支えていきます。

通所部門においても、新入生や分校に着任された先生を迎え新しいスタートを

切ります。通所ブロック長と分校分教室「ぶんぶん」・不登校児等デイケア「てくてく」がトライアングルとなって、「教育と福祉の連携」に取り組み、子どもたちの成長を支えます。

文科省が掲げる「教育と福祉の連携」は相応の努力と高い意識とスキルを要し、実践されなければ「掲げただけの看板・理想論」で終わってしまいます。希望館通所部門による現場実践はトップレベルと自負しており、これについて更に教育や地域支援各関係機関と手を携えていけるよう努めていきます。

支援体制の拡充、各部署各関係者（医療・心理・生活・調理・財務・教育・地域・保護者のみなさま…数えればきりがありません）との連携、各種会議のシステム等は、単に大人が満たされたりやり易くなるためのものではありません。全ては傷つきや困り感を抱えてここにたどり着いた子どもたちの笑顔や幸せが紡がれ「希望館に来てよかった」と思える未来に帰結していかなければならないと考えます。

その未来に向けて、希望館は子どもたちを含む全ての人たちと力を合わせて歩んでいきたいと思えます。

新任職員の自己紹介

◆こぼとホーム



保育士
末本 楓

今年度からお世話になります。

できないこと、分からないことが沢山あり、日々勉強の毎日ですが学んだことをしっかりと身につけ、1日1日を大切にしながら子どもたち、職員の方と過ごしていきたいと思います。

一生懸命頑張ります。よろしく願います。

◆のぎくホーム



保育士
木下 仁 実

私はとにかく、子どもたちとたくさん遊び、たくさん会話をし、たくさん関わりたいと思っています。新しい環境での生活で不安もあり、慣れないことばかりでみなさんにご迷惑をおかけする事ばかりだと思えますが、自分らしく一生懸命頑張りますのでよろしくお願い致します。

◆わかばホーム



児童指導員
川井 くるみ

今年度よりお世話になります。初めての事ばかりで分からない事もたくさんありますが、子どもとの何気ない会話や一瞬一瞬の時間を大切に、一緒に成長していきたいと思えます！これからよろしくお願い致します。



通所 児童指導員
下 石 智 枝

日々の生活で子どもたちに気づかせてもらうことがたくさんあると実感しています。私自身も子どもたちと一緒に成長していけるよういろいろな吸収しながら過ごしたいと思えます。



電話相談コーディネーター
折 本 大 樹

みなさんこんにちは。
約4年ぶりに学園に帰ってきました。
久しぶりの学園に懐かしさを感じています。

子どもたちや職員の皆さんと一緒に楽しみながら自分に出来ることを頑張ります。

いきたいと思ひます。
よろしく願ひします!!

乳 児 院

鳥取子ども学園乳児部

看護の源

チーム長・看護師

中 江 大

乳児部で子どもたちと過ごす中で、子どもの観察力に驚かされることが多々あります。教わるでもなく大人がしていることを、見よう見まねで行えるようになるのです。挨拶や履き物を揃えること、家事・育児の細かなところまで真似する様子に感じます。生活の営みの中で何気なくしていることが、子どもの社会性の獲得に繋がっていくことが良く解ります。

私がホームに行くとき「もしもしする?」とか「もしもししたな」など診察を察したり、診察を受けたことを覚えている子もいます。毎週水曜嘱託医の往診があるので子どもたちも慣れており、喉の視診のため医師が舌圧子を子どもの口に近

づけると大きく口を開けてくれます。人見知りなどで大泣きし診察への不安を訴える子もいますが、そんなときは医師がやさしく子どもをなだめ手早く診察を終えてくれます。

乳児がお世話してもらっている様子をホームで日々見ている2歳児は、自分も同じようにお世話したがり拙いながらも乳児の頭を撫でたり抱っこや授乳に関心を示します。そのタイミングでポポちゃん人形を差し出すと、上手に横抱きして哺乳瓶の玩具を人形の口元に運びます。更にポポちゃん人形をおんぶ紐でおんぶさせてもらうと、機嫌よく部屋を歩いて回ります。そしてお世話の遊びが一通り満足したら今度は自分が赤ちゃん返りし、抱っこやおんぶで甘えて心を満たしてもらいます。日々生活の中で散歩や外遊び、草花や動物とのふれ合いを通して養育性も育まれていきます。乳幼児期にあるがままの自分を受け入れ見守ってもらう体験の積み重ねが、自己効力感や自己肯定感を育み生きていく力になっていくものだと感じます。

人間は胎児期から新生児期・乳幼児期と目覚ましく成長していきますが、スイスの生物学者ポルトマンがいうようにヒトは生理的早産であるがゆえ、生命を維持するため全てにおいてお世話が必要に

なります。そして乳児部で生活している子どもたちはそれまでの養育環境も様々で健康面や発達面で個々に課題があり、私たちは保護者と共に子どもの成長を見守り、疾病予防や健康回復に繋がるよう支援を行っています。子どもの素直さや観察力・探求心にかくやってみる行動力など、一緒に過ごす中で学ぶことが多く子どもたちとの日々の関わりが私の看護の源となっています。

「岡村さん」と

呼ばれる日まで

チーム長・栄養士

岡 村 知 子

乳児部栄養士として働き始めて2年目となりました。厨房に入る、事務所で仕事を、ホームや事業所内保育施設とリットらんどを行き来するなど、毎日バタバタと過ごしています。発育・発達に合わせて離乳食の進め具合をすべて個別対応しているので、把握していくのも気合を入れていきます。まだまだ、不慣れなことも多いです。大変ではありますが、子どもたちやホームの職員と直接関わる機会も増えたので、視野も広がり日々新鮮な気持ちです。

さて、そんな私ですが未だに認知度が低く、「岡本さん!」と名前を間違えられることが少なくありません。ちなみに、私だけではなく家族もよく間違えられているようなので、岡村あるあるなのではないでしょうか。小さな子どもには「おかまらさん!」と声をかけられることもあります。きっと、発音も難しいのでしょう。認知していただけるよう、何らかの形で努力していきたいと思ひます。

乳児部では、独自に行っているイベントが多々あり「バイキング」がその一つとして挙げられます。スバゲティ、からあげ、おにぎり、デザートなど子どもたちが食べたいものを自分で選べる行事であり、普段とは違った雰囲気の中で楽しい時間を過ごします。ちょっと食が細い子も、この日は意欲的に食べることができたりします。「自分で」選択する体験は素敵な思い出にもなりそうです。はりきってお手伝いをしてくれる子どももいます。

昨年度は感染症の流行もあり、開催できるか不安もあり



ましたが、何とか工夫してできました。他にも、3歳を迎える子どもたちを対象とした「わくわくタイム」では、一緒におやつ作りを行います。昨年度は、梅雨の時期にかたつむりをイメージしたケーキや、夏にはかき氷屋さんをしました。この時間では、普段の生活の中でなかなかできないような体験を探しつつ企画しています。最初は緊張していた子どもたちも、一緒に何か作っていく過程で、次第に笑顔を見せてくれとてもうれしいです。普段は調理したものを提供する仕事ですが、実際に一緒に何かを作ったり、食べている姿を見ることは私自身とても勉強になります。そして、何より楽しいです。

子どもたちが「食べることを楽しいな」と思えるような環境作りをこれからもしていけたらと思います。

新任職員の自己紹介

◆どんぶりホーム



保育士

川 上 明 峰

今年度からお世話になります。体を動かすことが好きなので、子どもたちに負けないくらい、元氣いっぱい一緒に遊ん

でいきたいです。まだまだ慣れない環境の中、ご迷惑をおかけすることと思いますがどうぞよろしくお願いいたします。

◆かりんホーム



児童指導員

金 子 沙 耶 伽

初めまして。4月から児童指導員としてお世話になっていきます。まだまだ未熟ですが、職員の方々や子どもたちからたくさんのことを学びながら、精一杯頑張りますのでよろしくお願いします。

認定子ども園

鳥取みどり園

であう



園 長

西 垣 恭 子

天神川の土手の桜が見事に咲き誇る中、23名の可愛い子どもたちが本園にやってきました。コロナ禍になり3年目の春を迎えましたが、鳥取市の感

染状況は一向に収まらず今年も入園式が予定通りできるか案じていましたが、無事に挙行でき、保護者の皆様と一緒に新入園児の喜びの日をお祝いできたこと、本当に有難く思います。

キリスト教のことを全く知らなかった私が、縁あってキリスト教保育を行う鳥取みどり園に勤務し、イエス様と出会い、早3年目の春を迎えました。

キリスト教保育を行っている本園の生活の場には、いつも傍にイエス様がいてくださいます。朝の始まりに、子どもたちは先生と一緒に月の聖句（聖句とは聖書の中の言葉で、今月は「神は愛である」）を唱え、子ども賛美歌（今月は「小さいおてて」）をうたいおててをくみあ

わせ。こうしておいのりいたします。ようかみさま よいこにしてください）を歌います。そして、イエス様が今日も明るい朝をお与えくださり、みんなをお守りくださることや、食前には食べ物に口に入れることへの感謝など、生活の場面面でイエス様のお守りと祝福に感謝して祈りを捧げ、そして、お祈りの最後には、必ず「アーメン」と唱えます。

子どもたちと祈るほんの数分間の祈りの中で、自分を見つめ、周りの人へ思いを馳せながらお祈りをし、お祈りの最後に、「本当にその通りです」という心が

らの賛同と、「必ずそうなります」と強く信じる確信と、「私もそのために働きます」という決意の3つの意味が含まれている「アーメン」を言い終えた瞬間、心が整ったような清々しさと、元気な力が湧いてくるような感を覚えます。

さて、今年入園してきた子どもたちは、3年前の私と同じように、キリスト教保育を行う本園の生活の場でイエス様に出会い、イエス様の愛を知り、進級の子どもたちと一緒に賛美歌を歌い、お祈りをする毎日を始めます。

小さな手を組み合わせ、担任の先生と一緒に一生懸命お祈りをしている子どもたちの姿はとても愛おしく、キラキラと輝いているように見えます。また、毎朝、園内に響く讃美歌を歌う子どもたちの歌声は、私の心を温かくしてくれ、今日も頑張ろうと勇気をくれます。

キリスト教の教えである『愛』を基盤とする保育の特色は、祈りを通して自分や周りの人・自然を大切にすることを育むことに加え、祈りのある心落ち着く『静の時間』と祈り後の活発に体を動かして遊ぶ『動の時間』が1日の生活の場にバランスよくあることです。今年入園してきた子どもたちも、本園のメリハリのある生活の場で、ゆったりしたり心躍らせたりしながら、友達との生活や遊びを豊

かに展開してくれることでしょう。楽しみです。

新任職員のご紹介



保育教諭

植 田 帆 南

まだ分からないことが多く、不安もありますが、周りの職員の方々と協力しながら、子どもたちが安心して楽しく生活を送ることができるよう丁寧に関わっていききたいと思います。よろしくお願いします。



保育教諭

清 水 直 美

「絵本読んで」「砂場で遊ぶ」「子どもたちから、毎日笑顔と元気をもたらしています。子どもたちと一緒に1日を大切に楽しいみどり園生活を過ごしていきたいと思っています。よろしくお願いします。」



自立援助ホーム

鳥取フレンド 鳥取スマイル はればれ

自立援助ホーム

「はればれ」開設

はればれ

寮長 門 脇 弘 道

4月、新たに当法人3か所目の自立援助ホームとして開設しました。自立援助ホーム「はればれ」寮長の門脇弘道です。自立援助ホームとは、なんらかの理由で家庭や施設等にいらなくなった15歳から概ね22歳の若者たちが生活する場所です。安心安全で生き生きと生活し、他者との信頼関係を通じて社会で生き抜く力を身に付け、若者たちが精神的・経済的に自立できるように援助することを目的としています。「はればれ」という名前は、若者たちの未来が澄み渡る青空のように明るく温かであってほしいという願いを込めたものです。開設に際して、未来ある若者の安心ある生活と未来のために、各方面から多大なるお力添えをいただいたことに、はればれスタッフ一同

感謝の気持ちでいっぱいです。

昨年度、全国4番目の自立援助ホーム「鳥取フレンド」の前寮長である山中捷二さんがご逝去されました。山中さんが残してこられた功績は多大であり、「鳥取フレンド」「鳥取スマイル」とともに、「はればれ」もそのバトンを受け取りました。山中さんは「自立援助ホームは若者の止まり木のような存在である」と語られています。現在、若者が抱えている悩みや課題はかなり複雑です。自立援助ホームで生活する若者は、被虐待や発達障害など一言では語れないほど様々な問題と向き合い、悩みながらもがきながら生活しています。「はればれ」はそんな若者たちが社会に出る一歩手前でホッと一息つき、前向きに飛び立てるための準備ができる「止まり木」のような存在であり続けたいです。スタッフは自立を目指す若者に寄り添い、時には背中をそっと押すことのできる場所を作ります。そして、明るく元氣にはればれと



したホームを若者たちと一緒に作っていきますので今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

児童家庭支援センター

子ども家庭支援センター「希望館」

毎年変わらず

大切にしていること



所長

山 中 八 寿 子

今年も教育棟の玄関前のハナミズキの花が満開になりました。大雪が降ろうと、天候が不順だろうと、コロナ禍であることと変わりなく毎年きれいな花を咲かせてくれます。

子ども家庭支援センター「希望館」は、今年度6年ぶりにニューフェイスを迎え、新しい風が入り込み新鮮な雰囲気になっていきます。

この支援センターは今年で22年目を迎えており、1年間の相談件数は3000件を超えています。相談内容は、不登校であったり、子どもの学校や家での気に

なる言動であったり、家族が養育に悩んでいたりと、対応の仕方に困ったりと様々な相談が寄せられ、セラピーや相談面接などを行い、困り感に寄り添いながら相談援助を行っています。

相談のお子さんの年齢としては学齢期のお子もさんの相談が多くありますが、2年前から親御さんと子どもさんの情動的な関わりを応援するため、4、5歳の幼児さんの相談も受けています。相談の経過で親御さんのお子もさんへの関わり方、眼差しが違ってくるのを感じています。

このように、子どもさんやその家庭からの相談を受けていますが、毎年変わらず大切にしていることは、子どもさんの主体性を大事にしながら、親御さんの子育てを応援しているところです。

今年度もニューフェイス山田ソーシャルワーカーと共にお待ちしておりますので、気軽に相談をしてください。

《山田ソーシャルワーカーより》

今年度から支援センターに加わった山田美希です。仕事に慣れて力になれるよう頑張っていきますのでよろしく願います。

※家族・子育てについての悩みや、子

もに関するあらゆる相談に応じています。

相談料は無料です。

○電話相談

月曜日～金曜日 朝8時30分～夜12時
(緊急の場合は、休日、祝日、時間外も24時間対応)

○来所相談

開所時間 月曜日～金曜日
朝8時30分～夕方5時30分
専門の相談員が対応します。

就労自立支援事業

はまむら作業所
エミライズ

縁をつないで



統括所長
竹本 智恵

今年度より、当法人の就労自立支援事業を一つの括りとし、その統括に努めてまいります。

高校生、OB・OG、利用者の方々の就労や自立について、一緒に考えながら

それぞれの方に合った一歩が踏み出せるように、同じ方向を向いて寄り添っていきたくと思っています。

長年、この仕事に携わりながらいつも思い返すのは、子どもたちと生活を共にしていた頃の事です。目の前の喜怒哀楽の日々を皆で必死に生きていました。無我夢中です。10人もの子どもたちと生きるという事は、本当に様々な事が起こりました。文字通り必死ですから、子どもたちのためと思っていた事が気付くと、本当にその子のためなのかと思う事もありました。その度に、これで良かったのか、どういつフォローが必要が等々振り返りの繰り返しです。相手の気持ちや立場に立つとは、言っただけ簡単ですが実際はそうそう分かるものではありません。とは言え、相手の気持ちになつたつもりでは的外れな対応になってしまします。そこには、気遣う努力が必要だと思っています。相手が傷つかないように配慮したり、こちらの意見を押しつけない事を意識したり、相手の声をしっかり聞く事等々。

本当に大切なことはいつも子どもたちや関わる人たちが教えてくれます。そして、今でもそれは本当に相手のためかと自問自答します。同じ方向を向いて進むための、大切な確認です。

人生は、出会いの連続です。その連続が人の生きる道を作り、人生を変えていきます。出会ったことが必然であると考えた方が、人生が豊かなものになると思います。そして、縁あって出会った方々から更に多くの方々と繋がります。皆、そつした人との繋がりの中で生かされています。その繋がりは、本当に貴重なものであると感じています。そつして支え合いながら皆が進んで行けるのだと思います。全ての出会いに感謝です。

法人の理念は「愛」です。愛とは、とても深いです。初めて学園の理念をお伝えする方には、「一人ひとりを大切にする。自分を大切に他人も大切にする。ありのままを受け止め子どもと大人が共に育つ。」と話します。そして、理念とも通じるこの言葉をいつも心に思います。「愛は、お互いを見つめ合うことではなく、ともに同じ方向を見つめることです」(サン＝テグジュペリ)

肝心なことは目に見えない。心で見なくてはものごとはよく見えない。これからも、心を大切にしながら出会った方々とともに前を向いて進んでいきたいと思っています。

最後になりましたが、微力ではありますが力を尽くしていきます。今後とも皆さまの支援をよろしくお願い致します。

就労継続支援B型作業所

はまむら作業所

働く応援と

居場所の両立を

管理者 山岡 宏樹

おかげさまで、はまむら作業所も10周年を経過し、先日11年目の春を事業所の皆さんと花見をしながら迎えられました。今日まで事業所の活動に愛情をもって御尽力いただいている、作業所の仲間の皆さん、地域の皆さん、企業の皆さん、法人の皆さんに感謝です。

さて、開設当初からの事業所コンセプトの一つでもある、「居場所」としてのはまむら作業所について、この数年悩んでいます。それは、なかなか1つの形が作れない、利用者さんの思いに全部は応えられていないという事にです。利用者の皆さんとの、1日の大半を作業メインに過ごす私たち。時々、余暇の時間や生活の相談事もお話しますが、就労の事業所であるので、作業依頼先の企業さんのニーズに対応したり、工賃の獲得の為にある程度目標に向かったりしています。それは、当たり前の事なのかもしれませんが、事業所に集う利用者さんと語る時

間が足りない、事業所に集う皆さんの人数も増え、その思いの数も増え、1日があつという間に過ぎてしまつのが現状です。利用者さんが生活する中で日々感じている不安な事、イライラな事、嬉しい事、これからの事など、彼らと向き合う時間彼らが語れる事ができる時間をもつ少し大事にしなければと感じています。

開設当初、ニーズの大半は、「自宅から何とか出て、日中の作業を共にする」でありました。定時の昼ごはんにあるつける事自体が難しい方も多く、現理事長の理解もあり、食事提供をしながら、毎日が未定の状態で毎日を過ごすのが精一杯な数年でした。月日が経過し、集う方々のニーズは多様化し、現在では、80歳から20歳までの年齢層の方々が集うようになり、また、どんな障がいの方もという受け入れもしている現在です。開設当時にはない、にぎやかさと多様な思いや考え、ニーズの中「居場所」の概念も事業所としてかわってきたように感じます。利用者さんの中に、「次は」とステップアップを目指し他の事業所も目指す方、「ま、いっか」と今を過ごす方、仲間との事が気になり悩む方、「よくわからん」けど1日が済みそうと感じる方、いろんな方々が「今」のこの時、作業や余暇を通して過ごしているように感じま

す。同じ場所に集う中にいろんな価値観の方が居ていいと認め合う事は忘れないで皆さんとこれからも活動していきたいと思っています。その「居場所」を、作業所の仲間たちの希望に沿った形となるようつくり続けていく事、その為に必要な事は毎日模索・工夫を続けたいと思います。そして、せっかくなはまむら作業所に居るのだから利用者さんがその人らしく輝ける発見の場所、安気に活動できるように、利用者の皆さん、作業所スタッフ、地域の皆さん、企業の皆さん、法人の皆さんと協力していきます。どうぞこれからも、声をかけてください。とてもありがたいです。

就労移行支援事業所

エミライズ

『エミライズ号航海中』

所長 植田 憲治

朝一番の仕事、ブラインドを上げる。そんな時、鮮明に目に入るのは「米子城址」です。「日本最強の城」一度は行きたい絶景の城」に選ばれています。日本海、市街地等を360度一望できる天

守からの絶景は「ダイヤモンド大山」の特等席にもなっています。

エミライズが開設し、間もなく1年が経とうとしています。少しずつですが、利用者も増えてきました。少し賑やかになりバタバタもしています。ただ、今後どのような状態になっても、仕事の事でお悩みの方へ勇気の一步を踏み出せるよう、100%のオーダーメイドで、誰でも無理なく通いながら就職を目指す場所の思いは変わりません。

就職には、

- ① 生活力
- ② コミュニケーション力
- ③ 就業力
- ④ 職場定着力

の4つの力が必要とされます。利用者の「持ち味」を一緒に模索していきながら、常にそのニーズや歩幅に合わせたサポートを心掛け、寄り添っていきます。

出航して間もないですが、米子城の魅力に負けず劣らず、我々も地域に愛され、



必要とされる、まさに「ダイヤモンドエミライズ号」として進んで参ります。

診療所

川口孝一の発達クリニック

ボスを偲んで

「信じ、委ねることができる

度量に抱えられ」



医師

川口 孝一

当診療所「こころの発達クリニック」と言つ名前産みの親であり、私に鳥取こども学園への道を作つて下さった国立療養所鳥取病院名誉院長 福岡悦夫先生が今年の1月お亡くなりになりました。診療所も開設して12年経ち、国立療養所鳥取病院勤務時代からのお礼を述べたいと思つていながら、不遜な私は先生が病氣療養中であつたことすら知らず、直接お礼も述べぬまま訃報を受けることとなりました。悔やまれます。霊前にお参り行かせて頂いた折に、奥様に本学園便りに先生のことを書かせて頂く事の了解をえました。

私は鳥大医学部を卒業し研修医として附属病院神経精神医学教室に入局しました。当時は医局のデューティー制度というものがあり、5年間は医局の指示で動かなければなりませんでした。1年目の研修は大学病院で、2年目は学生時代より児童思春期精神科医を目指していたこともあり、児童領域が専門でもある先生の居られる国立療養所鳥取病院で研修させて頂きました。1年間の鳥取病院での研修後は再び大学病院へ戻らなければならなかったのですが、「大学病院へ戻っても児童思春期精神科臨床をする人は居ないから鳥取病院に残りなさい」と先生が勧めて下さり、大学病院精神科の教授にも交渉して下さり鳥取病院に残れることになりました。次の年度は大阪大学関連の病院・施設に1年間週半分の、児童思春期精神医学の研修に行かせて頂き、その翌年昭和63年度から副院長の柏木先生とバトンタッチする形で児童相談所と鳥取こども学園の嘱託医にさせて頂き、今日までの鳥取こども学園との縁が生まれました（そして当法人藤野興一理事長との出会いが私の人生を変えました）。先生には他に若草学園の園医や教育委員会関係の医療相談、鳥取発達障害研究会事務局（他職種の方との出会いを頂きました）等の仕事を与えて頂きました。先

生は毒舌ではつきりものを言われる方でしたので敵も多く誤解されているところも多かったと思うのですが、若草学園で幼児さんを抱き上げる姿を拝見し、「本当に先生は子どもが好きなんだあ」と想った時の微笑ましい情景を今も覚えています。また先生は私の様なアウトロー（私はまだノーマルの方。あ、失礼）、個性的な人間を好んで世話されるころもありました。鳥取病院では私も卒に囚われず、目の前の患者さんにとって必要だと思われることを型破りにやっています。でも先生に怒られたことは一度もありませんでした。「やりたいようにやれば良い。何かあっても最終的に院長である私が責任を取るから」と言つて下さっていました。患者さんのためと分かて下さっていたからだと思います。児童相談所の嘱託医の仕事を受けた時も、「必要があつて手当の申請をされているのだから、なるべく通るように診断書を書いてあげなさい」と言つて下さったことを今でも覚えていますし、今もその教えに従い、（もちろん嘘にならないようにですが）診断書類を作成しています。先生は度胸もあり、動じず自分の信念を貫く方でもありました。組合との団体交渉も余裕で、いつしか組合側も諦め折り合いを付けてこられていました。頭もずば抜

けておられました。意地があり負けず嫌いな努力家でもありました。毎週ある院内の海外文献の抄読会でも我々他の医師は英語文献の紹介でしたが、福岡先生はいつもドイツ語文献でした。あるフランス語の専門書の原著を読みたいと思われて、フランス語を独学で身に付けられたと先輩医師から聞いたこともあります。そんなボスの下恵まれた環境の中で仕事をさせて頂いていましたが、転機が訪れました。鳥取こども学園に常勤の精神科医（または小児科医）が要る児童心理治療施設「鳥取こども学園希望館」の併設の話が出てきたのです。私に迷いは無く、先生に「鳥取病院を辞めて、学園に移りたい」と話しました。始めは反対されましたが、意志が固いと分かると認めて下さり、ご多忙にも関わらず設立準備委員会のメンバーにもなつて下さり、そこで「こころの発達クリニック」と言う名称を提案して頂きました。それだけでなく、希望館では保険診療は認められていなかったたので、学園関連で薬が必要な時は鳥取病院で私が処方できるように病院に非常勤の籍も残して頂きました。一言で云つと先生は、「最終責任は自分が負つ覚悟で部下を信じ委ねる度量を持ち、決して自らの業績をひけらかさない、信じ任せた者への支援は惜しまない

が恩着せがましいことは一切言わない」「そんなボス、精神科医、男福岡でした。「私も先生の様に学園の仲間やこともたちを信じ委ねる度量を少しでも持てたらなあ」と思います。本当に長い間、ありがとございました。これからも雲の上から幼児さんを抱きかかえられた時のあの優しいまなざしで見守って下さい。ご冥福をお祈りいたします。最後に、そんな福岡先生を支えてこられた素敵な奥様、康子様にも感謝いたします。ありがとうございました。

鳥取養育研究所

所員を募集しています

事務局員 清水 暁子

「オンライン会議」「オンデマインド配信」「ハイブリット型研修」などの言葉が、よつやくすなりと耳に入ってくるよつになりました。70代半ばになる私の父が、「今日はオンライン同窓会だ」と、お酒つまみを準備してパソコンの前に座っている姿には、さすがに驚きまし

た。父にとってこれらの方法は、物理的な距離を理由に疎遠になりがちだった友人と気軽に交流できる、という新しい価値を生み出したよつです。

コロナ禍での当研究所の活動は、感染予防対策による行動制限と集会や集客の制限が余儀なくされ、これまで実施してきた大会も、新たに動き出す研究も、足踏み状態となっていました。そんな中、「養育研ニュース」は、所員のみなさまとの大事なつながりと考え、発行し続けています。所員から寄せられるエッセイを読むと、子どもの養育を様々なかたちで支援しようとする熱意や願いをもった仲間がいることを知り、励まされる思いです。

最新号(令和4年3月31日発行)では、当研究所にとって、コロナ禍での挑戦とも言える大会「社会的養護当事者からの発信をあなたへ」未来を切り開く力になるよつに「(3月5日オンライン形式にて開催)の報告を掲載しました。大会では、児童養護施設で暮らした経験がある3名の方に登壇をお願いし、トークセッションと講演を展開しました。当日は、社会的養護の子どもたち、施設関係者や支援者、大学教員、大学生、心理士、アドボカシー関係者など職種を問わず総勢100名程度の参加がありました。大会の企画や準備、当日のトークセッション

ンのファシリテートに至るまで、主催者として大事にしたことは、「声を聴く」ことです。大会報告においても、登壇者の「お声を切り取らない、都合の良いように使わない、その生き様を丸ごと学ぶ」ことを大前提として文字にしませんでした。届いた声は、参加者それぞれの気付きをもたらしたことでしょつ。

残念ながら、この「養育研ニュース」は、所員限定で配信をしています。これから、「子どもを子どもと一緒に」届けていきたいと思ひます。みなさんもお仲間になりませんか？



鳥取養育研究所 HP

鳥取県里親養育包括支援事業 里親支援とつとり

児童養護の 先進県とつとり

里親支援とつとり
所長 遠藤 信彦

子育て王国鳥取県は、児童養護の先進県です。全国47都道府県の、児童養護データと人口との比率を順位づけする

と、鳥取県はさまざまな項目で上位にランクインしています。

まず、児童相談所の数が多いです。県立中央病院のそばに福祉相談センター、倉吉市立東中学校のそばに倉吉児童相談所、米子市博労町に米子児童相談所と、計3カ所あります。お隣の兵庫県は、人口が鳥取県の10倍ですが、児童相談所は分室を合わせて10カ所ですから、鳥取県の3カ所は多いと言えます。児童福祉司の数も多く、地域を手厚くカバーし、早めの相談と対応ができています。

次に、保護を必要とする子どものあすかり手が多いです。乳児院が2つ、児童養護施設が5つで約230人ものキャパシティがあり、里親の登録が、養育・専門・養子縁組・親族の4種類あわせて約120世帯もあります。里親の数が多い理由には、ボランティア参加率の高さが影響していると考えられます。鳥取県民は、住んでいる所と働き先が近いことから、地域づくりに貢献する意識が高い傾向にあるそつです。また、古くからいとなまれてきた里親養育の取り組みが、地域に根付き、知られていると考えられます。里親の制度は、太平洋戦争終了間もない昭和23年に制定されましたが、その直後に、鳥取県の里親同士が助け合うグループ『鳥取県里親会』が結成されま

した。この結成は日本で一番早く、『最古の里親会』と言われています。結成メンバーの一人は、戦地から故郷に帰った際、これからは、命の奪い合いではなく、命を育むために人生を捧げたいという想いで里親を始めました。この方の想いは、今も地域に脈々と受け継がれています。

そして、全国トップレベルで、児童への虐待が少ないのです。

これらのランキング結果から、鳥取県は、手厚い体制で子どもの育ちを見守っており、あずかり手が十分にあることで、事態が深刻になる前に子どもをあずかることができ、高い水準で児童の虐待を防止できていることがうかがえます。

人口55万人の、日本で最も小さな県ですが、コンパクトだからこそ、児童相談所と施設と里親が、がっちりスクラムを組み、『顔の見える関係』で子どもの育ちを守っています。古くから、里親同士、里親と施設が支え合い、これら民間社会福祉の取り組みを、鳥取県行政が大きく後押ししています。

先人たちがつちかってきたこの風土を、敬意と誇りをもって受け継いでいきます。子どもたちがこころ豊かで暮らし良いこの土地を、さらに醸成させるため、業務に励みます。

事業所内保育施設

とりこひらんど

保育士2年目

頑張ります！

保育士 大久保 咲季

私がとりこひらんどの保育士になり1年が経ち、この春から2年目を迎えます。天神川の桜が満開になり、ドキドキしながら辞令交付式に出席した1年前の事を思い出しました。

この1年間は初めての事ばかりで、一つ一つの事が楽しく、又学びの1年であつという間に過ぎていきました。そんな中でも、日々の子どもの関わりで沢山悩むこともありました。

子どもたちは様々な要求を様々な形で表してきます。甘えたい気持ちだったり、子ども自身が気持ちの葛藤をしたり、悲しくなっていたり…。目に見えてわかる子どもの姿もありますが、自分の気持ちと裏腹な行動をしている子どももあり、子どもの気持ちを理解するのがこんなに難しいことなのだと実感しました。

そんな時に私が、最も助けられていた



のは一緒に働いている先生方です。先生方とは、雑談を交えながら子どもとのエピソードや、保育の事を日々話しています。その時間が私はとても好きです。年の差がありますが、そんなことを感じさせないほど皆さん話しやすくて、様々な事を教えてくださったり、一緒に考えてくださったりします。様々な意見を頂きながら保育をしていく事で、少しずつですが子どもの気持ちを理解できるようになっているのかな…と思います。

また、子どもの成長を感じる1年でもありました。ハイハイをしていた子どもが今では歩いたり、走ったりする事が上手になっていたり、お話ができるようになっていたり、「○○せんせい〜!」と

呼べるようになっていたり…ここに書ききれないほどの成長を一人ひとりがしています。そして、その成長を保護者の方々と共有し、嬉しそうにされる姿を見ると私も嬉しさが胸がいっぱいになります。

最後になりますが、子ども一人ひとりを十分に受け止め寄り添う事の出来る少人数保育ならではの良さを持つとりこひらんどで、働く保護者の方のサポートを少しでも出来ればいいなと思います。また子どもたちと楽しく、安全に気を付けながら過ごし、子どもの成長を感じながら私自身もさらに成長し、レベルアップしていきたいと思います。

笑顔で元気に2年目頑張ります！

新任職員の自己紹介



保育士

村田 梨枝子

子どもたち一人ひとりの個性を大切にしながら、元気に安心して過ごせる様に見守って行きたいと思っています。今までの経験を生かしながら、子どもたちと共にまだまだ成長していきたいと思っています。よろしく願います。

当学園事業へのご寄付 後援会へのご加入に 感謝申し上げます。

前回報告以降、現在まで、ご寄付いただいた方々、
後援会に賛同（会費納入）していただいた方々は、
下記のとおりです。
心より感謝し、ご報告申し上げます。

寄 付 者 (R 3.11.11 ~ R 4. 5. 7)

敬称略

氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
(医)たなか小児科医院 (特非) Living in Peace Minami English School 南 利 子 相 見 寿 子 赤 畑 仁 司 秋 崎 る り 子 浅 野 和 子 安 達 裕 見 子 雨 河 一 就 子 荒 尾 雄 二 子 生 田 百 合 子 井 口 壬 生 子 幾 野 裕 昭 子 池 尾 真 理 子 池 上 聡 一 子 石 倉 洋 子 石 田 信 夫 子 いしど歯科クリニック 磯 田 教 子 市 谷 年 弘 館 一 心 伊 藤 文 明 代 伊 藤 文 正 子 井 上 信 康 夫 子 井 上 裕 子 伊 吹 啓 子 入 川 加 代 子 入 来 美 紀 子 (医)きむら耳鼻咽喉科医院 (医)さとに田園クリニック 理 事 長 太 田 匡 彦 岩 崎 薫 岩 田 美 代 子 岩 渕 明 美 子 植 田 公 平 子 上 村 優 子 臼 井 螢 子 江 谷 孝 明 子 大 谷 恭 一 子 大 塚 憲 治 也 大 塚 元 也 大 月 和 真	大 前 幸 正、 啓 子 大 山 卓 也 オ カ ダ エ ツ コ 岡 田 武 子 岡 田 博 子 岡 村 進、 衣 織 岡 本 小 児 科 医 院 賢 岡 本 小 児 科 医 院 賢 尾 崎 信 一 郎 尾 崎 俣 子 下 石 尚 人 海 藤 ひ ろ み 懸 樋 宮 子 影 久 眞 智 片 倉 夏 実 加 藤 和 徳 加 藤 由 紀 (株)三 協 レ ン タ ル (株)信 勝 丸 漁 業 代表取締役 山岡 寛人 (株)竹内クレーン工業 代表取締役 竹内 秀明 (株)徳 田 商 店 豪 徳 田 商 店 豪 (株)ト リ ベ イ (株)中 井 脩 (株)葡 萄 家 代表取締役 山根 一利 (株)ヤ マ ネ 機 材 代表取締役 山根 克仁 (株)コ タ ニ 代表取締役 小谷 憲司 (株)二 シ オ (株)保健企画 ひまわり薬局 (株)ミナミコーポレーション 代表取締役 岡本 安量 (株)メモワールイナバン (株)ダ イ ヘ ン 神 谷 夏 子 亀 本 良 一 河 妹 宏 太 川 口 明 子 川 口 ア ヤ 子 川 口 敬 恵	北 村 優 木 下 尚 則 木 村 祐 子 木 本 裕 治 キ ャ ッ ツ テ ー ル 草 野 雅 昭 国 富 一 郎 熊 谷 務 蔵 本 美 知 子 黒 川 和 子 桑 村 達 也 高 力 房 枝 コ ー ル お も か げ 代 表 大 谷 昭 子 国際ソロプチミスト鳥取 小 島 法 律 事 務 所 衛 弁 護 士 小 島 衛 小 竹 多 喜 雄 小 竹 原 寛 小 原 隆 三 小羊チャイルドセンター 小羊教会 代表 市川 益子 米 谷 令 子 小 屋 本 る み 子 近 藤 明 近 藤 正 浩 齋 木 一 紀 齋 藤 明 彦 齋 藤 禎 一 齋 藤 智 子 齋 藤 光 實 齋 藤 基、 春 代 坂 根 政 代 澤 末 春 山陰酸素工業(株)鳥取支店 山 陰 冷 暖 設 備 (株) 柴 田 和 仁 下 園 裕 一 正 林 督 章 白 井 道 子 新 矢 檜 夫 ス ー メ リ ー な つ み 末 益 裕 香 杉 村 英 子	田 賀 由 美 子 高 槻 成 紀、 知 子 高 橋 伊 佐 夫 子 高 橋 京 子 田 川 成 士 タグチレディースクリニック 田 口 俊 章 竹 内 一 昭 竹 本 芳 宏 武 安 泰 雄 田 中 昶 修 田 中 和 子 田 中 耕 自 谷 口 勝 也 タニグチ・ヘア・サロン 谷 口 義 明 谷 島 伸 二 田 淵 陽 子 玉 木 敏 久 田 村 愛 子 田 村 明 子 田 村 明 長 田 村 裕 子 田 村 和 子 常 井 幹 生 角 田 治 代 寺 本 美 奈 樹 藤 内 正 誠 沓 野 一 鳥 取 医 療 器 (株) 鳥 取 鶏 卵 販 売 (株) 代表取締役 長田 淳 鳥取県労働者福祉協議会東部支部 鳥取こども学園後援会 鳥 取 市 仏 教 会 鳥取市立城北小学校 PTA 鳥 取 友 の 会 鳥 取 み ど り 園 保 護 者 鳥 山 玲 子 中 嶋 哲 一 中 嶋 陽 一 中 嶋 洋 介

氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
中 原 琴 美	はやし社会保険労務士事務所	村 上 悦 子	(有)ウ コ ン 自 動 車
中 原 照 子	林 義 雄	村 上 収	代表取締役 右近 謙治
中 村 匡 子	パ ル ス 電 工 (有)	邨 上 啓 子	(有) 谷 □ 谷 □ 肇
中 本 久 美 子	半 田 卓 実	村 中 良 子	(有) 鳥取システムサービス
中山小児科内科医院	東国府ブロック民生児童委員協議会	村 山 嘉 次	横 山 房 子
中 山 裕 雄	広 谷 笑 子	明治安田生命保険相互会社	吉 田 由 美 子
西 浦 公 子	福 寿 み どり	鳥取支社長 八矢 一城	リセット 溝口 智子
西 尾 英 樹	福 田 眞	持 末 邦 子	龍 福 寺
西 室 博 志	福 長 正 彦	望 月 彰 子	若 川 重 信
西 山 満	藤 井 五 百 子	盛 本 裕 子	若 木 太 郎
西 山 裕 子	藤 井 重 明	森 脇 美 恵	若 桜 柿 坂 医 院
日 海 通 信 工 業 (株)	藤 井 秀 樹	八頭更生保護女性会	柿 坂 紀 武
日本キリスト教団 倉吉上井教会	藤 原 毅 芳	安 本 妙 子	渡 邊 健 次
日本基督教団 鳥取教会	ブ ラ イ ダ ル 青 木	ヤ マ シ タ タ カ シ	(学) 愛 真 幼 稚 園
日本基督教団 米子教会	青 木 美 保 子	山 田 健 朗	仁 保 統 博
日本キリスト教団鳥取教会	古 川 潤 一	山 田 太 郎	悲 眼 院 高 橋 昌 文
シ オ ン 会	ホ ッ ト ほ っ と ク ラ ブ	山 田 敏 明	中 島 素 美 子
端 詰 英 俊	堀 内 苑 生	山 名 祐 子	河 田 瑛 子
長 谷 賢 二	前 田 俊 和	山 根 健 太 郎	天 徳 寺
畑 山 博 史	前 田 美 喜 子	山 根 茂	尾 崎 三 智 子
八 村 輝 夫	前田医院 前田 宏治	山 根 青 果 (株)	丸 山 順 子
花 木 正 史	巻 田 豊	(有) 家 電 の き の し た	郡 希 口 子
濱 田 久 美	松 浦 静 江	代表取締役 木下 通徳	井 須 尚 紀
浜 田 素 子	松 田 章 義	(有) 赤山建築設計事務所	佐 藤 道 男
濱 本 五 十 鈴	松 永 隆 夫	代表取締役 赤山 善男	増 田 千 尋
濱 本 英 機	松 本 勲	(有) 福 田 設 備 設 計	松 永 陽 明 氏
林 朱 美 弘	松 本 泰	代表取締役 福田 正美	無 名
林 眞	三 木 康 二	(有) 堀 鍍 金 工 業 所	

物 品 寄 付 者

(R 3.11.10 ~ R 4. 5.11)

敬称略

氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
U F O 秋 里	国際ソロプチミスト鳥取	中 尾 佳 子	村 上 水 産
U F O 扇 町	斎 藤 正 七 郎	中 村 敦 司	山 □ 佳 奈
U F O 吉 方	資生堂社会福祉財団	西 谷 初 恵	山 田 英 一
浅 井 富 美 子	柴 原 史 則	日 本 鏡 餅 組 合	山 田 悦 子
市 谷 年 弘	清 水 由 紀 子	日 本 画 グ ル ー プ	ヤマネ機材 山根克仁
稲 場 孝 文	修 立 小 学 校	白 岡 文 江	山 本 圭 介
井 上 信 正	全国シャンメリー協同組合	信 夫 正 規	山 本 正 明
入 川 絵 美	大 樹 寺	橋 本 真 紀 子	(有) 夢 屋
エ フ ピ コ 上 田	谷 □ 和 恵	パ ン ド ラ の 箱	吉 野 國 彦
大 谷 麻 衣	寺 本 美 奈 代	福 田 温 史	森 福 寺
小 川 泉	徳 田 商 店	福 田 眞	河 本 準 一
海 陽 亭	鳥取いなばライオンズクラブ	福田養蜂場、宮ノ下小学校	長 谷 川 正 昭
金 森 興 太 郎	会 長 住 谷 き よ み	袋 川 を は ぐ く む 会	NPO 法人 白うさぎ
(株) Daska & Desiree	鳥 取 鶏 卵 販 売 (株)	本 光 寺	天 鬼 弥 生
(株) シグナルプラス	鳥 取 県 自 閉 症 協 会	マイスター代表 白田 仁	(株) ゼ ン ヤ ク ノ 一
(株) ファームSORA 湯邨 勲	理 事 小 松 し の ぶ	前 住 次 寿	信 夫 君 代 氏
かわぐち ようこ	鳥取県中小企業団体中央会	前 場 大 輔	無 名
倉 元 麻 美 子	鳥取南更生保護女性会	松 下 暢 子	
高 本 喜 久、 祐 子	山 田 曠 恵	三 浦 い づ み	

法人本部よりお知らせ

1. 法人本部体制について

法人本部は令和4年4月1日より「法人事務局」と法人運営のトータルコーディネイトを担当する「法人運営企画室」の1局1室体制となりました。各担当事務員が一体となり法人全体及び各施設・事業所の事務にあたるとともに、法人の理念に基づいて運営されている施設・事業所、そして実践を行う職員が円滑にその役割を果たせるようサポートしてまいります。今後ともよろしくお願いいたします。



運営企画室長
山本 隆史



事務局長
山根 章明

2. 社会福祉法人鳥取こども学園は、様々なツールで情報発信をしております

- (1) 法人ホームページ <https://www.tottorikodomogakuen.or.jp/>
- (2) facebook
 - ① 法人facebook <https://www.facebook.com/toriko01>
 - ② 認定こども園 鳥取みどり園 <https://www.facebook.com/tottorimidorien>
 - ③ 事業所内保育施設 とりっこらんど <https://www.facebook.com/torikkoland1941>
 - ④ 就労移行支援事業所 エミライズ <https://www.facebook.com/emirisetoriko>
- (3) note https://note.com/tottori_kodomo
法人、施設、事業所の様々な情報をこの3つのツールをリンクさせながらお伝えしておりますので、是非ご覧ください。



エミライズHP トップページ

法人
facebook



法人HP



法人
note



エミライズHP



3. オンライン寄付募集サービスについて

- (1) 『Syncable』
<https://syncable.biz/associate/toriko01/>
- (2) ブランド品買取サービス「ブランディア」と寄付プラットフォーム「Syncable」が共同で運営するBrandPledge（ブランドプレッジ）のページも用意しております。送られてくるダンボールに洋服やブランド品を詰めて送り返すと査定額からご寄付いただけます。
<https://brand-pledge.jp/associate/toriko01>

その他、詳しくは『鳥取こども学園のご支援・ご寄付をお願いしております』ページをご覧ください。（ページ上部に様々なご寄付の方法を掲載しております）

<https://tottorikodomogakuen.amebaownd.com/>

ご寄付と併せて、facebookやtwitterのアカウントをお持ちの皆様は是非「シェア」していただくとありがたいです。

私たち社会福祉法人鳥取こども学園がさらに歩みを続け、私たちの施設で出会った子どもたち、これから出会う子どもたちへの途切れることのない応援とご寄付をお願いいたします。

法人 Syncable
サイト



鳥取こども学園のご支援・ご寄付を
お願いしておりますサイト



法人 BrandPledge
サイト



●従前どおり銀行口座へのご寄付は、下記へお願いします

法人本部：〒680-0061 鳥取市立川町5丁目417番地 鳥取こども学園内
TEL 0857-22-4206 FAX 0857-23-0242

振込口座：郵便振替 01490-9-9106

鳥取銀行本店営業部

山陰合同銀行鳥取営業部

普通預金 7645611

普通預金 3422812

口座名義：社会福祉法人鳥取こども学園 理事長 藤野 興一

※なお、郵便振替は寄付金・後援会費共通口座となっておりますので、寄付金・後援会費のどちらかに〇をしてご入金ください。

●後援会会費は下記へお願いします

振込口座：鳥取銀行本店営業部

口座名義：鳥取こども学園後援会

普通預金 0405970

会長 村上 亜由美

【お願い】

この「学園だより」は、当法人にご理解、ご協力いただいている皆さまに、施設での出来事、様子等を報告する意味で発刊しています。同封しています寄付金・会費の振込み用紙は、あくまでも皆さまの便宜を考えてのことですので、ご理解いただきますようお願い致します。今後とも、当法人を温かく見守って下さいますよう、心よりお願い申し上げます。